

平成24年度
お茶の水女子大学部局別評価

自己点検・評価及び外部評価の
「改善を要する点」対応説明書

平成25年10月

お茶の水女子大学
理学部

指摘事項	対応・改善策
<p>【改善を要する点】</p> <p>○ 教員定数の削減と相関して、いくつかの点検項目において、将来にわたり現在の学部運営および教育研究の水準を維持することは難しいことが予想されている。この点は見過ごすことの出来ない重要な問題で有り、改善へ向けた方策の早期策定がのぞまれる。(P6、89)</p>	<p>【理学部】</p> <p>教員定数の削減は全学的問題であるので、大学執行部との話し合いを通じて改善の方向を模索するとともに、理学部としても、優れた取り組みである「学際プログラム」、「理数応援プロジェクト」ならびに「卒研シフト」を継続実施するために必要な経費および人員を確保するために、新たな外部資金等の獲得に向けて鋭意努力を行う。</p>
<p>【改善を要する点】</p> <p>○ 複数プログラムの実施など、意欲的かつ学生に対するきめ細かい対応が、カリキュラムの複雑化、教員の過度の負担増などにつながらないか危惧され、節目ごとに各種の試みの成果を客観的に評価し、必要に応じた見直しが望まれる。(P6、89)</p>	<p>【理学部】</p> <p>教育プログラムの改革は今端緒についたばかりである。したがって少し経過を見て、適正な評価を行った後に、継続の如何を審議する。ただし、教育プログラムの改革は全学的問題であるので、本学が今後どのような教育を志向するかを全学的議論を通じて、理学部としての改善の方向を模索する。</p> <p>【教育機構（教育企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数プログラム選択履修制度のカリキュラムを定期的に見直し、科目の精査などカリキュラムのブラッシュアップを行う。科目を精査することにより、教員に対する不必要な科目負担増、事務負担増を減少させることを試みる。